



# 麦の栽培管理情報

令和7年11月

東部振興局生産流通部 集落営農・水田畑地化班

## 麦は湿害に弱い・・・排水対策を第一に！！

麦は耐湿性が弱く、湿害を受けやすい作物です  
雨水が素早く排出されるよう排水対策をしっかりと行いましょう



### ◆排水対策の種類とねらい

- ①額縁明渠・・・地表面の水を迅速に排出する
- ②弾丸暗渠・・・土壌内に亀裂を入れて、余剰水の縦浸透を促す
- ③圃場内排水溝・・・地表面の排水を促す

#### ①額縁明渠

圃場の周囲に深さ30cm、幅30cm程度を目安に施工します  
排水口は明渠の深さまで掘り下げ、確実に排水路につなげます



額縁明渠



端をつなげる



排水口は明渠の深さまで掘り下げる



ユンボや溝堀機で作溝

#### ②弾丸暗渠

深さ30～40cmに2～3m間隔で施工します  
両サイドからいれて格子状にすると効果が高くなります

### ◆ここがポイント！

サブソイラーの作業機が地面と平行になるよう調整する。傾いていると弾丸がまっすぐに入らず、暗渠が崩れやすい。



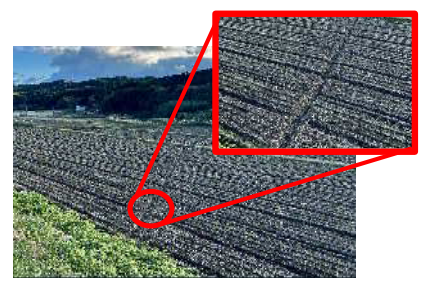
深さ30cm



圃場に対し斜めに、反対側からも入れて、暗渠を交差させる  
(斜めにいれることで、水稻作付時に田植え機が暗渠にはまらない)

### ③圃場内排水溝

額縁明渠、弾丸暗渠に加え、圃場中央に排水溝を設けると、排水性がさらに向上します  
管理機で排水溝を掘り、周囲の額縁明渠につなげます



圃場中心部の表面排水溝

## 適期遅れの播種は、播種量を増やす！

### ①播種時期・播種量

麦の播種適期は11/20～25です(播種期は11/15～12/10)  
遅い播種は生育量が劣り収量が下がるため、時期が下がるときは播種量を増やしましょう

#### ◆10aあたり播種量

時期	条 播			全面播		
品種	11/下旬	12/月上旬	12/中旬	11/下旬	12/月上旬	12/中旬
ハルアカネ	6～7kg	7～8kg	8～10kg	7～9kg	8～11kg	9～13kg
はるみずき	6～7kg	7～8kg	8～10kg	8～9kg	9～11kg	10～13kg
チクゴイズミ	7～8kg	8～10kg	9～11kg	8～9kg	9～11kg	10～13kg
ニシノホシ	8～9kg	9～11kg	10～13kg	9～11kg	10～13kg	12～15kg

### ②播種の深さ

出芽数を確保するため、播種深度は3cm程度に設定します  
※浅すぎ、深すぎは、苗立ちに大きく影響するので注意！

#### ◆播種深度が浅過ぎる場合

- ・乾燥条件が続くと出芽率が低下
- ・播種直後土壌処理剤(除草剤)の薬害が出やすい

#### ◆播種深度が深すぎる場合

- ・出芽が遅れ、発芽不良により苗立ちが不足
- ・分けつが少なくなり、穂数を確保できずに減収する



試し播種で  
深さを確認  
しよう！

## 初期除草剤(播種直後の土壌処理剤)は、播種と一貫作業で！

土壌処理剤が効果を発揮するには、**土壌表面の均一な処理層**とある程度の**水分が必要**です  
丁寧な碎土を行い、**播種と土壌処理剤の散布を「一貫作業(流れ作業)」**で実施しましょう

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
リベレーターG (粒剤)	播種後～麦2葉期まで (イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	—	全面土壌散布
リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期まで (イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml	100L	雑草茎葉散布 または全面土壌散布
ボクサー乳剤	播種後～麦2葉期 (雑草発生始期まで)	400～500ml	100L	雑草茎葉散布 または全面土壌散布